

<大動脈解離を発症された患者さま、そのご家族さまへ>

突然発症され生命が危険にさらされる非常に重篤な疾患であり、特に A 型という緊急手術を必要とするタイプでは時間的な猶予の無いことが多く、状態によっては手術室へ直行する必要があります。術前に十分な説明ができないことが多く、大変不安に思われることでしょう。本疾患は大動脈壁が裂けてしまう急性疾患であるため、体内への大出血や脳脊髄、心臓、腹部臓器、下肢などの重要臓器への血流障害が生じると救命困難です。緊急手術となる疾患の中では非常に厳しい領域に属しますが、当科ではチーム一丸となって全力で治療にあたっております。

現実的には患者さんの状態が刻一刻と悪化していくため、以下にお示しする説明書をご家族にお渡しするのが精一杯で、手術室に直行するケースも稀ではありません。参考にしてください。

<説明書>

ご家族さま、関係者さまへ

急性大動脈解離は高血圧などが原因で突然、大動脈の血管壁が裂けてしまう疾患です。今まで経験したことの無いような激しい胸痛や背部痛で発症して、短時間で重篤な状態に陥ってしまう恐ろしい大病です。特に A 型の急性大動脈解離は心臓や脳などの重要臓器に障害が及ぶため、数日以内に 9 割以上の方がお亡くなりになります。救命のためには一か八かでも緊急手術が必要です。

大動脈は全身の臓器に血液を送っていますが、この血管壁が全長にわたって裂けてしまうため、大量出血やあらゆる臓器の血流障害が生じる可能性があります。主な死因は心臓周囲へ出血することによる血圧低下（「心タンポナーデ」といいます）、冠動脈が閉塞することによる心筋梗塞、頸動脈が閉塞しておこる脳梗塞、腸管や下肢の血流不全です。

緊急手術はすべての大動脈を修復することは不可能ですので、心臓に近い大動脈の「幹」に相当する主要な部分（上行大動脈あるいは弓部大動脈）を人工血管で置換します。人工心肺装置を使ってからだを 20℃台の低体温にします。心臓や脳、脊髄をはじめ全身臓器の血液供給を一定時間、完全に停止させて手術を行ないます。術中、術後の出血量は多く、大量の輸血が必要になります。したがって若年者や合併症の無いような方でも、侵襲の大きな大手術になります。あくまでも救命目的の手術になりますので、救命できたケースでも術後は心肺機能や脳神経障害を合併したために日常生活が著しく損なわれたり、寝たきり状態になることもあります。

時間的に余裕が無いため、術前に十分な説明ができないまま手術を実施することになります。突然発症され生命が危険にさらされている重篤な状態であるため、どなたさまも頭の中が混乱されているものとお察しいたします。チーム一丸となって全力で治療にあたります。